

出来形管理基準及び規格値

編		章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要	
3	土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	4		矢板工〔指定仮設・任意仮設は除く〕 (鋼矢板) (軽量鋼矢板) (コンクリート矢板) (広幅鋼矢板) (可とう鋼矢板)	基準高 $\nabla$	$\pm 50$	基準高は施工延長40m (測点間隔25mの場合)につき1箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。 変位は、施工延長20m (測点間隔25mの場合)につき1箇所、延長20m (又は25m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。		3-2-3-4	
							根入長	設計値以上				
							変位 $\theta$	100				
3	土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	5		縁石工 (縁石・アスカーブ)	延長 L	-200	1 箇所/1 施工箇所		3-2-3-5	
							設置高さ H	設計値以上				
							基礎	幅 $w$ (D) 高さ h 根入れ長				-30 -30 設計値以上
3	土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	6		小型標識工	設置高さ H	設計値以上	1 箇所/1 基礎 基礎1 基礎		3-2-3-6	
							基礎	幅 $w$ (D) 高さ h 根入れ長				-30 -30 設計値以上

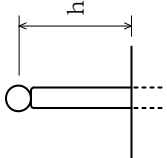
単位：mm

出来形管理基準及び規格値

編		章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要	
3	土木工事共通編	2	3	7		防止柵工 (立入防止柵) (転落(横断)防止柵) (車止めポスト)	基礎	幅 w	-30	単独基礎10基につき1基、10基以下のものは2基測定。測定箇所は1基につき1箇所測定。  1箇所/1施工箇所		3-2-3-7
								高さ h	-30			
								パイプ取付高 H	+30 -20			
3	土木工事共通編	2	3	8	1	路側防護柵工 (ガードレール)	基礎	幅 w	-30	1箇所/施工延長40m 40m以下のものは、2箇所/1施工箇所。  1箇所/1施工箇所		3-2-3-8
								高さ h	-30			
								ビーム取付高 H	+30 -20			
3	土木工事共通編	2	3	8	2	路側防護柵工 (ガードケーブル)	基礎	幅 w	-30	1箇所/1基礎毎  1箇所/1施工箇所		3-2-3-8
								高さ h	-30			
								延長 L	-100			
							ケーブル取付高 H	+30 -20				

単位：mm

出来形管理基準及び規格値

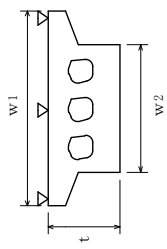
編		章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
3	土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	9		区画線工	厚 さ t (溶融式のみ)	設計値以上	各線種毎に、1箇所テストポイントにより測定。		3-2-3-9
							幅 w	設計値以上			
3	土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	10		道路付属物工 (視線誘導標) (距離標)	高 さ h	±30	1 箇所/10本 10本以下の場合は、2箇所測定。		3-2-3-10
3	土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	11		コンクリート面塗装工	塗料使用量	鋼道路橋塗装・防食便覧Ⅱ-74 「表-Ⅱ.5.5各塗料の標準使用量と標準膜厚」の標準使用量以上。 塗装系ごととの塗装面積を算出・照査して、各塗料の必要量を求め、塗付作業の開始前に搬入量(充缶数)と、塗付作業終了時に使用量(空缶数)を確認し、各々必要量以上であることを確認する。 1 ロットの大きさは500㎡とする。		3-2-3-11	

出来形管理基準及び規格値

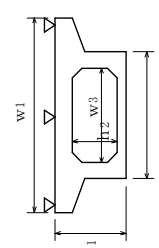
編		章	節	条	枝番	工種	種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要	
3	土木工事共通編	2	3	12	1	プレテンション桁製作 (購入工) (けた橋)	プレテンション桁製作	桁長 L (m)	±L/1000	桁全数について測定。 橋桁のそりは中央の値とする。 なお、JISマーク表示品を使用する場合は、製造工場の発行するJISに基づく試験成績表に替えることができる。	断面図  側面図  平面図	3-2-3-12	
								断面の外形寸法	±5				
								橋桁のそり $\delta_1$	±8				
								横方向の曲がり $\delta_2$	±10				
3	土木工事共通編	2	3	12	2	プレテンション桁製作 (購入工) (スラブ桁)	プレテンション桁製作	桁長 L (m)	±10… L ≤ 10m ±L/1000… L > 10m	桁全数について測定。 橋桁のそりは中央の値とする。 なお、JISマーク表示品を使用する場合は、製造工場の発行するJISに基づく試験成績表に替えることができる。	断面図  側面図  平面図	3-2-3-12	
								断面の外形寸法	±5				
								橋桁のそり $\delta_1$	±8				
								横方向の曲がり $\delta_2$	±10				
3	土木工事共通編	2	3	13	1	ポストテンション桁製作	ポストテンション桁製作	幅 (上) $w_1$	+10 -5	桁全数について測定。 横方向タワミの測定は、プレストレストレング後に測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の3箇所とする。 なお、JISマーク表示品を使用する場合は、製造工場の発行するJISに基づく試験成績表に替えることができる。 $\theta$ : 支間長 (m)	断面図  側面図  平面図	3-2-3-13	注) 新設のコンクリート構造物(橋梁上・下部工および重要構造物である内空断面幅25m以上のボックスカルバート(工場製作のプレキャスト製品は全ての工種において対象外)の鉄筋の配筋状況及びひびくりについては、「非破壊試験によるコンクリート構造物中の配筋状態及びひびくりに関する規格」も併せて適用する
								幅 (下) $w_2$	±5				
								高さ h	+10 -5				
								桁長 $\theta$ 支間長	$\theta < 15 \dots \pm 10$ $\theta \geq 15 \dots$ ± ( $\theta - 5$ ) か つー30mm以内				
								横方向最大タワミ	0.80				

出来形管理基準及び規格値

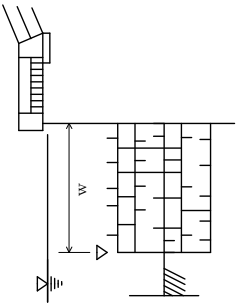
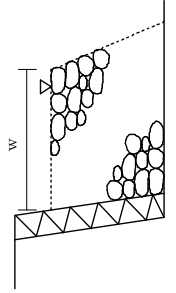
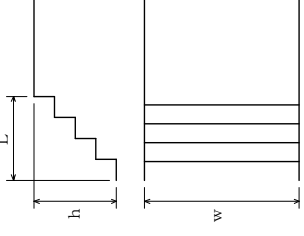
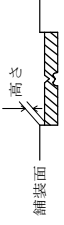
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3	2	3	13	2	プレキヤスタセグメント桁製作工(購入工)	桁長 $\phi$	—	桁全数について測定。桁断面寸法測定箇所は、図面の寸法表示箇所所で測定。		3-2-3-13
						断面の外形寸法 (mm)	—			
3	2	3	14		プレキヤスタセグメント主桁組立工	桁長 $\phi$	$0 < 15 \dots \pm 10$ $0 \geq 15 \dots$ $\pm (0 - 5)$ か つ $-30\text{mm}$ 以内	桁全数について測定。 横方向タワミの測定は、プレストレストシンクグ後に測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の3箇所とする $\phi$ ：支間長 (m)		3-2-3-14
						支間長				
						横方向最大タワミ	0.80			
3	2	3	15		PCホロースラブ製作工	基準高 $\nabla$	$\pm 20$	桁全数について測定。 基準高は、1径間当たり2箇所(支点付近)で1箇所当たり両端と中央部の3点、幅及び厚さは1径間当たり両端と中央部の3箇所。 ※鉄筋の出来形管理基準については、第3編 2-18-2床版工に準ずる。 $\phi$ ：桁長 (m)		3-2-3-15 注) 新設のコンクリート構造物(橋梁上・下部工および重要構造物である内空断面種25以上のボックスカルバート(工場製作のプレキャスト製品は全ての工種外)の鉄筋の配筋状況及びかぶりについては、「非破壊試験によるコンクリート構造物中の配筋状態及びかぶり測定要領」も併せて適用する
						幅 $w_1, w_2$	$-5 \sim +30$			
						厚さ $t$	$-10 \sim +20$			
						桁長 $\phi$	$0 < 15 \dots \pm 10$ $0 \geq 15 \dots$ $\pm (0 - 5)$ か つ $-30\text{mm}$ 以内			

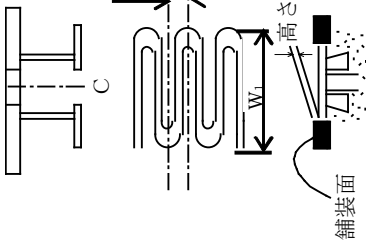
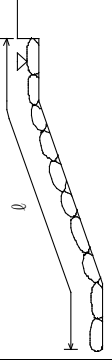
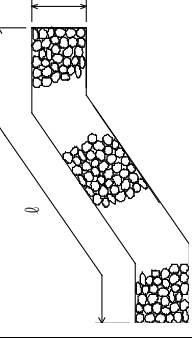
出来形管理基準及び規格値

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要	
3	土木工事共通編	3 共通の工種	16	1	PC箱桁製作工	基準高 $\nabla$	$\pm 20$	桁全数について測定。 基準高は、1 径間当たり 2 箇所（支点付近）で 1 箇所当たり両端と中央部の 3 点、幅及び高さは 1 径間当たり両端と中央部の 3 箇所。 ※鉄筋の出来形管理基準については、第 3 編 2-18-2 床版工に準ずる。 $\phi$ : 桁長 (m)		<p>3-2-3-16 注) 新設のコンクリート構造物（橋梁上・下部工および重要構造物である内空断面幅25mm以上のボックスカルバート（工場製作のプレキャスト製品は全ての工種において対象外）の鉄筋の配筋状況及びかぶりについては、「非破壊試験によるコンクリート構造物中の配筋状態及びかぶり測定要領」も併せて適用する</p>	
						幅 (上) $w_1$	$-5 \sim +30$				
						幅 (下) $w_2$	$-5 \sim +30$				
						内空幅 $w_3$	$\pm 5$				
						高さ $h_1$	+10 -5				
						内空高さ $h_2$	+10 -5				
						桁長 $\phi$	$\phi < 15 \dots \pm 10$ $\phi \geq 15 \dots$ $\pm (\phi - 5)$ か -30mm以内				
						幅 (上) $w_1$	$-5 \sim +30$				<p>3-2-3-16 注) 新設のコンクリート構造物（橋梁上・下部工および重要構造物である内空断面幅25mm以上のボックスカルバート（工場製作のプレキャスト製品は全ての工種において対象外）の鉄筋の配筋状況及びかぶりについては、「非破壊試験によるコンクリート構造物中の配筋状態及びかぶり測定要領」も併せて適用する</p>
						幅 (下) $w_2$	$-5 \sim +30$				
						内空幅 $w_3$	$\pm 5$				
高さ $h_1$	+10 -5										
内空高さ $h_2$	+10 -5										
桁長 $\phi$	$\phi < 15 \dots \pm 10$ $\phi \geq 15 \dots$ $\pm (\phi - 5)$ か -30mm以内										
層積	$\pm 100$										
乱積	$\pm t / 2$										
厚さ $t$	-20										
幅層積 $w_1$	-20										
幅層積 $w_2$	- $t / 2$										
延長層積 $L_1$	-200										
延長層積 $L_2$	- $t / 2$										

出来形管理基準及び規格値

編	章	節	条	枝番	工種	種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	18		沈床工		基準高 $\nabla$	$\pm 150$	1組毎		3-2-3-18
							幅 w	$\pm 300$			
							延長 L	-200			
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	19		捨石工		基準高 $\nabla$	-100	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。		3-2-3-19
							幅 w	-100			
							延長 L	-200			
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	22		階段工		幅 w	-30	1回/1施工箇所		3-2-3-22
							高さ h	-30			
							長さ L	-30			
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	24	1	伸縮装置工 (ゴムジョイント)		据付け高さ	舗装面に対し 0~-2	両端及び中央部付近を測定。		3-2-3-24
							表面の凹凸	3			
							仕上げ高さ	舗装面に対し 0~-2			

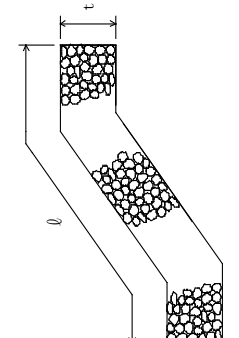
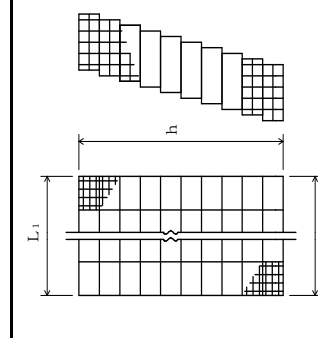
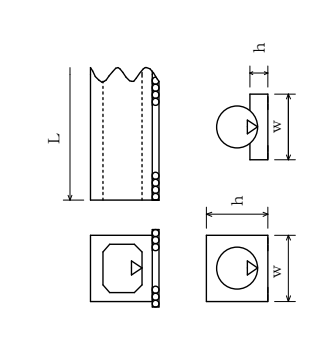
出来形管理基準及び規格値

編		章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
3	土 木 工 事 共 通 編	2	3	24	2	伸縮装置工 (鋼製フィンガンジョイント)	高さ	±3	高さについては車道端部、中央部各3点計9点。 縦方向及び横方向間隔は両端、中央部の計3点。		3-2-3-24
							据付け高さ	3			
							車線方向各点 誤差の相対差	3			
							表面の凹凸	2			
							歯型板面の歯咬み合い 部の高低差	±2			
							縦方向間隔W <sub>1</sub>	±5			
							横方向間隔W <sub>2</sub>	舗装面に対し0～ -2			
							仕上げ高さ				
							基準高▽				
							法長ℓ				
3	土 木 工 事 共 通 編	2	3	26	1	多自然型護岸工 (巨石張り、巨石積み)	延 長 L	-200	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。		3-2-3-26
							法 長 ℓ				
							延 長 L				
							法 長 ℓ				
							厚 さ t				
							延 長 L				
							法 長 ℓ				
							厚 さ t				
							延 長 L				
							法 長 ℓ				
3	土 木 工 事 共 通 編	2	3	26	2	多自然型護岸工 (かごマット)	延 長 L	-200	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。		3-2-3-26
							法 長 ℓ				
							厚 さ t				
							延 長 L				
							法 長 ℓ				
							厚 さ t				
							延 長 L				
							法 長 ℓ				
							厚 さ t				
							延 長 L				

単位：mm



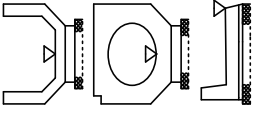
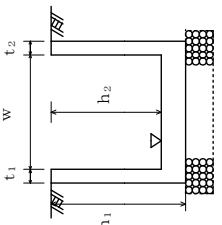
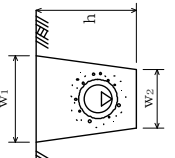
出来形管理基準及び規格値

編		章	節	条	枝番	工種	測定項目		規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3	土木工事共通編	2	3	27	1	羽口工 (じゃかご)	法長 $\varnothing$	$\varnothing < 3\text{ m}$	-50	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。		3-2-3-27
							$\varnothing \geq 3\text{ m}$	-100				
							厚さ t	-50				
3	土木工事共通編	2	3	27	2	羽口工 (ふとんかご、かご 枠)	高さ h		-100	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。		3-2-3-27
							延長 L1, L2		-200			
3	土木工事共通編	2	3	28		プレキヤストカルバート工 (プレキヤストボックス工) (プレキヤストパイプ工)	基準高 $\nabla$		$\pm 30$	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所、施工延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。 ※印は、現場打部分のある場合。		3-2-3-28
							※幅 w		-50			
							※高さ h		-30			
							延長 L		-200			

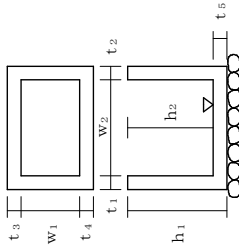
単位：mm

出来形管理基準及び規格値

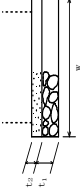
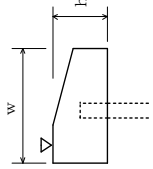
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3	2	3	29	1	側溝工 (プレキャストU型側溝) (L型側溝工) (自由勾配側溝) (管渠)	基準高 $\nabla$	$\pm 30$	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所、施工延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。		3-2-3-29
						延長 L	-200	1 箇所 / 1 施工箇所		
3	2	3	29	2	側溝工 (場所打水路工)	基準高 $\nabla$	$\pm 30$	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所、施工延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。		3-2-3-29
						厚さ $t_1, t_2$	-20			
						幅 w	-30			
						高さ $h_1, h_2$	-30			
						延長 L	-200			
						1 施工箇所毎				
3	2	3	29	3	側溝工 (暗渠工)	基準高 $\nabla$	$\pm 30$	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。		3-2-3-29
						幅 $w_1, w_2$	-50			
						深さ h	-30			
						延長 L	-200			
						1 施工箇所毎				

出来形管理基準及び規格値

編		章	節	条	枝番	工	種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3	土木工事共通編	2	一般施工	3	共通の工種	集水構工		基準高 $\nabla$	$\pm 30$	※は、現場打部分のある場合		3-2-3-30
								※厚さ $t_1 \sim t_5$	-20			
								※幅 $w_1, w_2$	-30			
								※高さ $h_1, h_2$	-30			
						現場塗装工		塗膜厚	<p>a. ロットの塗膜厚平均値は、目標の塗膜厚合計値の90%以上。</p> <p>b. 測定値の最小値は、目標塗膜厚合計値の70%以上。</p> <p>c. 測定値の分布の標準偏差は、目標塗膜厚合計値の20%を超えない。ただし、測定値の平均値が目標塗膜厚合計値より大きい場合はこの限りではない。</p>	<p>塗装終了時に測定。</p> <p>1 ロットの大きさ500㎡とする。</p> <p>11 ロット当たりの測定数は25点とし、各点の測定は5回行い、その平均値をその点の測定値とする。</p>	3-2-3-31	

出来形管理基準及び規格値

編		章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要	
3	土木工事共通編	2	一般施工	1		一般事項 (切込砂利) (砕石基礎工) (割ぐり石基礎工) (均しコンクリート)	幅	設計値以上	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。		3-2-4-1	
							高さ	-30				
							延長	各構造物の規格値による				
3	土木工事共通編	2	一般施工	3	1	基礎工 (護岸) (現場打)	基準高	±30	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。		3-2-4-3	
							幅	-30				
							高さ	-30				
							延長	-200				

出来形管理基準及び規格値

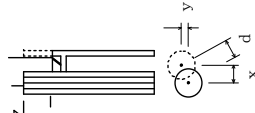
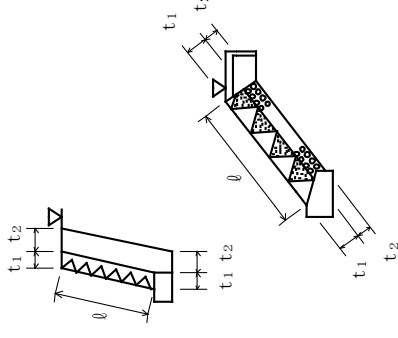
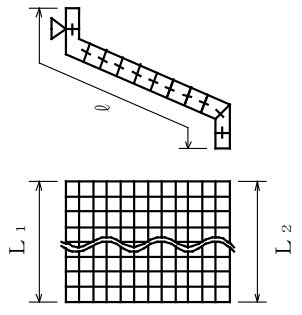
編		章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3	土木工事共通編	2	一般施工	3	2	基礎工(護岸) (プレキャスト)	基準高▽	±30	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、延長40m(又は50m)以下のものは1施工箇所につき2箇所。		3-2-4-3
							延長L	-200			
3	土木工事共通編	2	一般施工	4	1	既製杭工 (既製コンクリート杭) (鋼管杭) (H鋼杭)	基準高▽	±50	全数について杭中心で測定。		3-2-4-4
							根入長	設計値以上			
							偏心量 d	D/4以内かつ100以内			
							傾斜	1/100以内			
3	土木工事共通編	2	一般施工	4	2	既製杭工 (鋼管ソイルセメント杭)	基準高▽	±50	全数について杭中心で測定。		3-2-4-4
							根入長	設計値以上			
							偏心量 d	100以内			
							傾斜	1/100以内			
							杭径 D	設計値以上			
3	土木工事共通編	2	一般施工	5		場所打杭工	基準高▽	±50	全数について杭中心で測定。		3-2-4-5
							根入長	設計値以上			
							偏心量 d	100以内			
							傾斜	1/100以内			
							杭径 D	設計径(公称径) -30以上			

単位: mm

出来形管理基準及び規格値

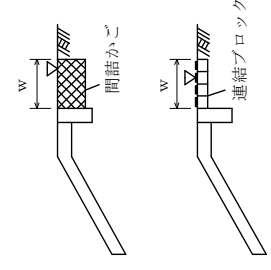
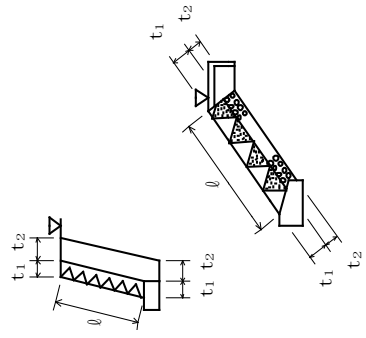
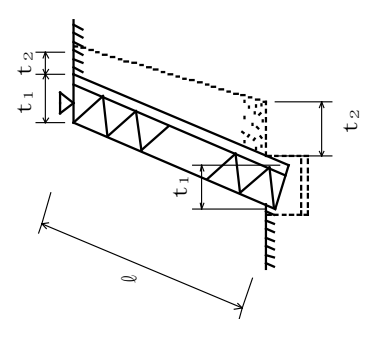
編		章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3 土木工事共通編	2 一般施工	4 基礎工	6			深礎工	基準高 $\nabla$	$\pm 50$	全数について杭中心で測定。		3-2-4-6
							根入長	設計値以上			
							偏心量 d	150以内			
							傾斜	1/50以内			
3 土木工事共通編	2 一般施工	4 基礎工	7			オープンケーソン基礎工	基準高 $\nabla$	$\pm 100$	壁厚、幅、高さ、長さ、偏心量については各打設ロットごとに測定。		3-2-4-7
							ケーソンの長さ $l$	-50			
							ケーソンの幅 w	-50			
							ケーソンの高さ h	-100			
							ケーソンの壁厚 t	-20			
							偏心量 d	300以内			
3 土木工事共通編	2 一般施工	4 基礎工	8			ニューマチックケーソン基礎工	基準高 $\nabla$	$\pm 100$	壁厚、幅、高さ、長さ、偏心量については各打設ロットごとに測定。		3-2-4-8
							ケーソンの長さ $l$	-50			
							ケーソンの幅 w	-50			
							ケーソンの高さ h	-100			
							ケーソンの壁厚 t	-20			
							偏心量 d	300以内			

出来形管理基準及び規格値

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要	
3	2	4	9		鋼管矢板基礎工	基準高 $\nabla$	$\pm 100$	基準高は、全数を測定。 偏心量は、1基ごとに測定。		3-2-4-9	
						根入長	設計値以上				
						偏心量 d	300以内				
3	2	5	3	1	コンクリートブロック積 (コンクリートブロック積) (コンクリートブロック張り)	基準高 $\nabla$	$\pm 50$	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。厚さは上端部及び下端部の2箇所を測定。		3-2-5-3	
						法長 $\phi$	$\phi < 3\text{ m}$				-50
							$\phi \geq 3\text{ m}$				-100
						厚さ (ブロック積張) $t_1$	-50				
						厚さ (裏込) $t_2$	-50				
						延長 L	-200				
3	2	5	3	2	コンクリートブロック積 (連節ブロック張り)	基準高 $\nabla$	$\pm 50$	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。		3-2-5-3	
						法長 $\phi$	-100				
						延長 $L_1, L_2$	-200				

単位：mm

出来形管理基準及び規格値

編		章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要	
3	土木工事共通編	2	一般施工	5	石・ブロック積(張)工	3	種	コングリートブロック工 (天端保護ブロック)	標準高 $\nabla$	$\pm 50$		3-2-5-3
							幅	$w$	-100			
							延長	$L$	-200			
<p>施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。</p>												
3	土木工事共通編	2	一般施工	5	石・ブロック積(張)工	4	種	緑化ブロック工	標準高 $\nabla$	$\pm 50$		3-2-5-4
							法長 $\ell$	$\ell < 3\text{ m}$	-50			
								$\ell \geq 3\text{ m}$	-100			
<p>施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。厚さは上端部及び下端部の2箇所を測定。</p>												
3	土木工事共通編	2	一般施工	5	石・ブロック積(張)工	5	種	石積(張)工	標準高 $\nabla$	$\pm 50$		3-2-5-5
							法長 $\ell$	$\ell < 3\text{ m}$	-50			
								$\ell \geq 3\text{ m}$	-100			
<p>施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。厚さは上端部及び下端部の2箇所を測定。</p>												



出来形管理基準及び規格値

編	章	節	枝番	工種	測定項目	規格値				測定基準	測定箇所	摘要
						個々の測定値(X)		10個の測定値の平均(X <sub>10</sub> )				
						中規模以上	小規模以下	中規模以上	小規模以下			
3	土木工事共通編	6 一般舗装工	1	アスファルト舗装工 (下層路盤工)	基準高▽	±40	±50	—	—	工事規模の考え方 中規模以上の工事とは、管理図等を 描いた上での管理が可能ないし、 舗装施工面積が10,000m <sup>2</sup> 以上あ るいは使用する基層および表層用混 合物の総使用量が、3,000 t 以上の場 合が該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工 事より規模は小さいものの、管理結 果を施工管理に反映できる規模の工 事をいい、同一工種の施工が数日連 続する場合で、次のいずれかに該当 するものをいう。 ①施工面積で2,000m <sup>2</sup> 以上10,000m <sup>2</sup> 未 満 ②使用する基層及び表層用混合物の 総使用量が500t以上3,000t未満 厚さは、個々の測定値が10個に9個 以上の割合で規格値を満足しなけれ ばならないとともに、10個の測定値 の平均値(X <sub>10</sub> )について満足しなけ ればならない。ただし、厚さのデー タ数が10個未満の場合は測定値の平 均値は適用しない。	3-2-6-7	
					厚さ	-45	-45	-15	-15			
					幅	-50	-50	—	—			
3	土木工事共通編	6 一般舗装工	2	アスファルト舗装工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工	厚さ	-25	-30	-8	-10	基準高は延長40m毎に1箇所の割と し、道路中心線および端部で測定。厚 さは各車線200m毎に1箇所を掘り起 こして測定。幅は、延長80m毎に1箇 所の割に測定。 厚さは、延長80m毎に1箇所の割とし、 厚さは各車線200m毎に1箇所を掘り 起こして測定。	3-2-6-7	
					幅	-50	-50	—	—			

単位：mm

出来形管理基準及び規格値

編	章	節	枝番	工種	測定項目	規格値				測定基準	測定箇所	摘要
						個々の測定値(X)		10個の測定値の平均(X <sub>10</sub> )				
3	2	6	3	アスファルト舗装工 (上層路盤工) セメント(石灰) 安定処理工	厚さ	中規模以上 -25	中規模以下 -30	中規模以上 -8	中規模以下 -10	幅は、延長80m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000㎡に1個の割でコアーを採取もしくは掘り起こして測定。	工事規模の考え方 中規模以上の工事とは、管理図等を描いた上での管理が可能な工事を行い、舗装施工面積が10,000㎡以上あるいは使用する基層および表層用混合物の総使用量が、3,000 t 以上の場 合が該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事を行い、同一工種の施工が数日連続する場合で、次のいずれかに該当するものをいう。 ①施工面積で2,000㎡以上10,000㎡未満 ②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上3,000t未満 厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなけれ ばならないとともに、10個の測定値の平均値(X <sub>10</sub> ) について満足しなけ ればならない。ただし、厚さのデー タ数が10個未満の場合は測定値の平 均値は適用しない。	3-2-6-7
					幅	中規模以上 -50	中規模以下 -50	中規模以上 -	中規模以下 -			
3	2	6	4	アスファルト舗装工 (加熱アスファルト) 安定処理工	厚さ	中規模以上 -15	中規模以下 -20	中規模以上 -5	中規模以下 -7	幅は、延長80m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000㎡に1個の割でコアーを採取して測定。	3-2-6-7	
					幅	中規模以上 -50	中規模以下 -50	中規模以上 -	中規模以下 -			

単位：mm

出来形管理基準及び規格値

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値				測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
							個々の測定値 (X)		10個の測定値の平均 (X <sub>10</sub> )				
3	2	6	7	5	アスファルト舗装工 (基層工)	厚 さ	中規模以上 -9	小規模以下 -12	中規模以上 -3	小規模以下 -4	幅は、延長80m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000㎡に1個の割でコアーを採取して測定。	工事規模の考え方 中規模以上の工事とは、管理図等を描いた上での管理が可能な工事をい い、舗装施工面積が10,000㎡以上あ るいは使用する基層および表層用混 合物の総使用量が、3,000 t 以上の場 合が該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工 事より規模は小さいものの、管理結 果を施工管理に反映できる規模の工 事をいい、同一工種の施工が数日連 続する場合で、次のいずれかに該当 するものをいう。 ①施工面積で2,000㎡以上10,000㎡未 満 ②使用する基層及び表層用混合物の 総使用量が500t以上3,000t未満 厚さは、個々の測定値が10個に9個 以上の割合で規格値を満足しなけれ ばならないとともに、10個の測定値 の平均値 (X <sub>10</sub> ) について満足しなけ ればならない。ただし、厚さのデー タ数が10個未満の場合は測定値の平 均値は適用しない。	3-2-6-7
						幅	-25	-25	-				
3	2	6	7	6	アスファルト舗装工 (表層工)	厚 さ	-7	-9	-2	-3	幅は、延長80m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000㎡に1個の割でコアーを採取して測定。	コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床 版等に損傷を与える恐れのある場合 は、他の方法によることが出来る。  維持工事においては、平坦性の項 目を省略することが出来る。	3-2-6-7
						幅	-25	-25	-	3 m <sup>2</sup> 以下 (σ) 2.4mm以下 直読式(足付 き) (σ) 1.75mm以 下			
						平坦性	-						

単位：mm

出来形管理基準及び規格値

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値				測定基準	測定箇所	摘要
							個々の測定値(X)		10個の測定値の平均(X <sub>10</sub> )				
							中規模以上	小規模以下	中規模以上	小規模以下			
3	2	6	8	1	半たわみ性舗装工 (下層路盤工)	基準高▽	±40	±50	—	—	工事規模の考え方 中規模以上の工事は、管理図等を描いた上での管理が可能な工事を行い、基層および表層用混合物の総使用量が3,000 t以上の場合は該当する。 小規模工事は、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合は該当する。	3-2-6-8	
						厚さ	-45	-45	-15	-15			
						幅	-50	-50	—	—			
3	2	6	8	2	半たわみ性舗装工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工	厚さ	-25	-30	-8	-10	幅は、延長80m毎に1箇所の割とし、厚さは、各車線200m毎に1箇所を掘り起こして測定。	3-2-6-8	
						幅	-50	-50	—	—			

単位：mm

出来形管理基準及び規格値

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値				測定基準	測定箇所	摘要			
							個々の測定値(X)		10個の測定値の平均(X <sub>10</sub> )							
3	2	6	8	3	半たわみ性舗装工 (上層路盤工) セメント(石灰)安定処理工	厚さ	中規模以上	-25	中規模以下	-30	中規模以上	-8	小規模以下	-10	工事規模の考え方 中規模以上の工事は、管理図等を用いた上での管理が可能な工事をいい、基層および表層用混合物の総使用量が3,000 t以上の場合が該当する。 小規模工事は、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合が該当する。 コア採取について 橋面舗装等でコア採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。 維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	3-2-6-8
						幅	中規模以上	-50	中規模以下	-50	中規模以上	-	小規模以下	-		
3	2	6	8	4	半たわみ性舗装工 (加熱アスファルト安定処理工)	厚さ	中規模以上	-15	中規模以下	-20	中規模以上	-5	小規模以下	-7	コア採取について 橋面舗装等でコア採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。 維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	3-2-6-8
						幅	中規模以上	-50	中規模以下	-50	中規模以上	-	小規模以下	-		
3	2	6	8	5	半たわみ性舗装工 (基層工)	厚さ	中規模以上	-9	中規模以下	-12	中規模以上	-3	小規模以下	-4	コア採取について 橋面舗装等でコア採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。 維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	3-2-6-8
						幅	中規模以上	-25	中規模以下	-25	中規模以上	-	小規模以下	-		
3	2	6	8	6	半たわみ性舗装工 (表層工)	厚さ	中規模以上	-7	中規模以下	-9	中規模以上	-2	小規模以下	-3	コア採取について 橋面舗装等でコア採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。 維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	3-2-6-8
						幅	中規模以上	-25	中規模以下	-25	中規模以上	-	小規模以下	-		
3	2	6	8		平坦性	平坦性	—		3 m <sup>2</sup> 以下 (σ) 2.4mm以下 直読式(足付き) (σ) 1.75mm以下							

単位：mm

出来形管理基準及び規格値

編		章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値				測定基準	測定箇所	摘要
								個々の測定値 (X)		10個の測定値の平均 (X <sub>10</sub> )				
								中規模以上	小規模以下	中規模以上	小規模以下			
3	土木工事共通編	2	一般施工	6	一般舗装工	排水性舗装工 (下層路盤工)	基準高▽	±40	±50	—	—	—	工事規模の考え方 中規模以上の工事は、管理図等を描いた上ででの管理が可能な工事を行い、基層および表層用混合物の総使用量が3,000 t以上の場合は該当する。小規模工事は、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合は該当する。 コア採取について 橋面舗装等でコア採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。 維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	3-2-6-9
							厚さ	-45	-45	-15	-15	—		
							幅	-50	-50	—	—	—		
3	土木工事共通編	2	一般施工	6	一般舗装工	排水性舗装工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工	厚さ	-25	-30	-8	-10	—	幅は、延長80m毎に1箇所の割とし、厚さは、各車線200m毎に1箇所を掘り起こして測定。	3-2-6-9
							幅	-50	-50	—	—	—		
3	土木工事共通編	2	一般施工	6	一般舗装工	排水性舗装工 (上層路盤工) セメント(石灰)安定処理工	厚さ	-25	-30	-8	-10	—	幅は、延長80m毎に1箇所の割とし、厚さは、1000㎡に1個の割でコアを採取もしくは掘り起こして測定。	3-2-6-9
							幅	-50	-50	—	—	—		

出来形管理基準及び規格値

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
							個々の測定値 (X)	10個の測定値の平均 (X <sub>10</sub> )	規格			
3	2	6	9	4	排水性舗装工 (加熱アスファルト安定処理工)	厚さ	中規模以上 -15	中規模以上 -5	小規模以下 -7	幅は、延長80m毎に1箇所の割とし、厚さは、1000㎡に1個の割でコアーを採取して測定。	工事規模の考え方 中規模以上の工事は、管理図等を用いた上での管理が可能な工事を行い、基層および表層用混合物の総使用量が3,000 t以上の場合は該当する。 小規模工事は、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合は該当する。 コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。 維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	3-2-6-9
						幅	-50	-	-			
3	2	6	9	5	排水性舗装工 (基層工)	厚さ	中規模以上 -9	中規模以上 -3	小規模以下 -4	幅は、延長80m毎に1箇所の割とし、厚さは、1000㎡に1個の割でコアーを採取して測定。	コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。 維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	3-2-6-9
						幅	-25	-	-			
3	2	6	9	6	排水性舗装工 (表層工)	厚さ	中規模以上 -7	中規模以上 -2	小規模以下 -3	幅は、延長80m毎に1箇所の割とし、厚さは、1000㎡に1個の割でコアーを採取して測定。		3-2-6-9
						幅	-25	-	-			
						平坦性	-	3 m <sup>2</sup> 以下 (σ) 2.4mm以下 直読式(足付き) (σ) 1.75mm以下				

単位：mm

出来形管理基準及び規格値

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値			測定基準	測定箇所	摘要
							個々の測定値 (X)	平均の測定値 ( $\bar{X}_{10}$ )	中規模以上			
3	土木工事共通編	2	10	1	透水性舗装工 (路盤工)	基準高▽	±50	—	—	基準高は片側延長40m毎に1箇所分割で測定。 厚さは、片側延長200m毎に1箇所掘り起こして測定。 幅は、片側延長80m毎に1箇所測定。 ※歩道舗装に適用する。		3-2-6-10
						厚さ	t < 15cm	-30	-10			
							t ≥ 15cm	-45	-15			
						幅	-100	—	—			
3	土木工事共通編	2	10	2	透水性舗装工 (表層工)	厚さ	-9	-3	—	幅は、片側延長80m毎に1箇所分割で測定。 厚さは、片側延長200m毎に1箇所コアを採取して測定。 ※歩道舗装に適用する。		3-2-6-10
						幅	-25	—	—			



出来形管理基準及び規格値

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値				測定基準	測定箇所	摘要		
							個々の測定値(X)		10個の測定値の平均(X <sub>10</sub> )						
3	2	6	11	1	グーアスアスフアアルト 舗装工 (加熱アスフアアルト 安定処理工)	厚さ	中規模以上	-15	小規模以下	-20	中規模以上	-5	小規模以下	-7	<p>工事規模の考え方 中規模以上の工事は、管理図等を用いた上での管理が可能な工事を行い、基層および表層用混合物の総使用量が3,000 t以上の場合は該当する。 小規模工事は、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合は該当する。</p> <p>コア採取について 橋面舗装等でコア採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。</p> <p>維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。</p>
						幅	中規模以上	-50	小規模以下	-50	中規模以上	—	小規模以下	—	
						幅	中規模以上	-25	小規模以下	-25	中規模以上	—	小規模以下	—	
3	2	6	11	2	グーアスアスフアアルト 舗装工 (基層工)	厚さ	中規模以上	-9	小規模以下	-12	中規模以上	-3	小規模以下	-4	<p>コア採取について 橋面舗装等でコア採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。</p> <p>維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。</p>
						幅	中規模以上	-25	小規模以下	-25	中規模以上	—	小規模以下	—	
						幅	中規模以上	-25	小規模以下	-25	中規模以上	—	小規模以下	—	
3	2	6	11	3	グーアスアスフアアルト 舗装工 (表層工)	厚さ	中規模以上	-7	小規模以下	-9	中規模以上	-2	小規模以下	-3	<p>幅は、延長80m毎に1箇所の割とし、厚さは、1000㎡に1箇所の割でコアーを採取して測定。</p> <p>幅は、延長80m毎に1箇所の割とし、厚さは、1000㎡に1箇所の割でコアーを採取して測定。</p> <p>幅は、延長80m毎に1箇所の割とし、厚さは、1000㎡に1箇所の割でコアーを採取して測定。</p>
						幅	中規模以上	-25	小規模以下	-25	中規模以上	—	小規模以下	—	
						平坦性	—	—	—	—	—	—	—	—	

単位：mm

出来形管理基準及び規格値

編	章	節	枝番	工種	測定項目	規格値			測定基準	測定箇所	摘要
						個々の測定値 (X)	平均の測定値 (X <sub>10</sub> )	中規模以上			
3	2	6	1	コンクリート舗装工 (下層路盤工)	基準高▽	中規模以上 ±40	平均の測定値 (X <sub>10</sub> ) 中規模以上 —	基準高は延長40m毎に1箇所を割とし、道路中心線および端部で測定。厚さは各車線200m毎に1箇所を掘り起こして測定。幅は、延長80m毎に1箇所の割に測定。	工事規模の考え方 中規模とは、1層あたりの施工面積が2,000㎡以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が500t未満あるいは施工面積が2,000㎡未満。厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しななければならないとともに、10個の測定値の平均値 (X <sub>10</sub> ) について満足しなければならぬ。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。 コア採取について 橋面舗装等でコア採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。	3-2-6-12	
					厚さ	±50	-15				
					幅	-50	—				
3	2	6	2	コンクリート舗装工 (粒度調整路盤工)	厚さ	中規模以上 -25	平均の測定値 (X <sub>10</sub> ) 中規模以上 -8	幅は、延長80m毎に1箇所を割とし、厚さは、各車線200m毎に1箇所を掘り起こして測定。		3-2-6-12	
					幅	-50	—				

単位：mm

出来形管理基準及び規格値

編	章	節	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
						個々の測定値 (X)	平均の測定値 (X <sub>10</sub> )	個々の測定値 (X <sub>10</sub> )			
3	2	6	3	コンクリート舗装工 (セメント(石灰・ 瀝青)安定処理工)	厚 さ	中規模 以上	-25	-8	幅は、延長80m毎に1箇所の割とし、 厚さは、1,000㎡に1個の割でコア一 を採取もしくは掘り起こして測定。	工事規模の考え方 中規模とは、1層あたりの施工面積 が2,000㎡以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱ア スファルト混合物の総使用量が500 t 未満あるいは施工面積が2,000㎡未 満。 厚さは、個々の測定値が10個に9個 以上の割合で規格値を満足しなけれ ばならないとともに、10個の測定値 の平均値 (X <sub>10</sub> ) について満足しなけ ればならない。ただし、厚さのデー タ数が10個未満の場合は測定値の平 均値は適用しない。	3-2-6-12
					幅	小規模 以下	-30	-			
3	2	6	4	コンクリート舗装工 (アスファルト中間 層)	厚 さ	中規模 以上	-9	-3	幅は、延長80m毎に1箇所の割とし、 厚さは、1,000㎡に1個の割でコア一 を採取して測定。	コア一採取について 橋面舗装等でコア一採取により床版 等に損傷を与える恐れのある場合 は、他の方法によることが出来る。	3-2-6-12
					幅	小規模 以下	-12	-			

出来形管理基準及び規格値

編	章	節	枝番	工 種	測定項目	規 格 値		測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	
						個々の測定値 (X)	平均の測定値 (X <sub>10</sub> )				
3	2	6	5	コンクリート舗装工 (コンクリート舗装版工)	厚 さ	中規模以上 -10	平均の測定値 (X <sub>10</sub> ) 中規模以上 -3.5	厚さは各車線の中心付近で型枠据付後各車線200m毎に水糸又はレベルにより1箇所当たり横断方向に3箇所以上測定。幅は、延長80m毎に1箇所の割合で測定。平坦性は各車線毎に版縁から1mの線上、全延長とする。	工事規模の考え方は、1層あたりの施工面積が2,000㎡以上とする。小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が500t未満あるいは施工面積が2,000㎡未満。 厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなればならないとともに、10個の測定値の平均値 (X <sub>10</sub> ) について満足しなればならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。 維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	3-2-6-12	
					幅	小規模以下 -25	—			隣接する各目地に対して、道路中心線及び端部で測定。	3-2-6-12
					平 坦 性	—	コンクリートの硬化後3mプロファイルメーターにより機械舗設の場合 (σ) 2.4mm以下 人力舗設の場合 (σ) 3mm以下				
3	2	6	6	コンクリート舗装工 (転圧コンクリート版工) 下層路盤工	目地段差	± 2		基準高は、延長40m毎に1箇所の割合とし、道路中心線及び端部で測定。厚さは、各車線200m毎に1箇所を掘り起こして測定。幅は、延長80m毎に1箇所の割合で測定。	3-2-6-12		
					基準高▽	± 40	± 50			幅は、延長80m毎に1箇所の割合とし、厚さは、各車線200m毎に1箇所を掘り起こして測定。	
					厚 さ	-45	-15				
3	2	6	7	コンクリート舗装工 (転圧コンクリート版工) 粒度調整路盤工	厚 さ	-25	-30	-8	幅は、延長80m毎に1箇所の割合とし、厚さは、各車線200m毎に1箇所を掘り起こして測定。	3-2-6-12	
					幅	-50	-50	—			
					平 坦 性	—	—	—			

出来形管理基準及び規格値

編	章	節	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
						個々の測定値 (X)	平均の測定値 (X <sub>10</sub> )	中規模以上			
3	2	6	8	コンクリート舗装工 (転圧コンクリート版工) セメント(石灰・瀝青)安定処理工	厚 さ	中規模以上 -25	平均の測定値 (X <sub>10</sub> ) -8	中規模以上	幅は、延長80m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000㎡に1個の割でコア一を採取もしくは、掘り起こして測定。	工事規模の考え方 中規模とは、1層あたりの施工面積が2,000㎡以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が500t未満あるいは施工面積が2,000㎡未満。 厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなればならないとともに、10個の測定値の平均値(X <sub>10</sub> )について満足しなればならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。	3-2-6-12
					幅	-50	-				
3	2	6	9	コンクリート舗装工 (転圧コンクリート版工) アスファルト中間層	厚 さ	中規模以上 -9	-3		幅は、延長80m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000㎡に1個の割でコア一を採取して測定。	コア一採取について 橋面舗装等でコア一採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。 維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	3-2-6-12
					幅	-25	-				
3	2	6	10	コンクリート舗装工 (転圧コンクリート版工)	厚 さ	-15	-4.5		厚さは、各車線の中心付近で型枠掘付後各車線200m毎に水糸又はレベルにより1測線当たり横断方向に3箇所以上測定、幅は、延長80m毎に1箇所の割で測定、平坦性は各車線毎に版縁から1mの線上、全延長とする。		
					幅	-35	-	転圧コンクリートの硬化後、3mプロファイラにより(σ)2.4mm以下。			
					目地段差	±2		隣接する各目地に対して、道路中心線及び端部で測定。			

単位：mm

出来形管理基準及び規格値

編	章	節	枝番	工種	測定項目	規格値			測定基準	測定箇所	摘要
						個々の測定値 (X)	平均の測定値 (X <sub>10</sub> )	中規模以上			
3	2	6	1	薄層カラー舗装工 (下層路盤工)	基準高▽	中規模以上 ±40	平均の測定値 (X <sub>10</sub> ) 中規模以上 —	基準高は、延長40m毎に1箇所の割とし、道路中心線及び端部で測定。厚さは、各車線200m毎に1箇所を掘り起こして測定。幅は、延長80m毎に1箇所の割に測定。  厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなればならないとともに、10個の測定値の平均値 (X <sub>10</sub> ) について満足しなればならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。	3-2-6-13		
					厚さ	±50	—				
					幅	-45	-15				
3	2	6	2	薄層カラー舗装工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工	厚さ	中規模以上 -25	平均の測定値 (X <sub>10</sub> ) 中規模以上 -8	幅は、延長80m毎に1箇所の割とし、厚さは、各車線200m毎に1箇所を掘り起こして測定。	3-2-6-13		
					幅	-30	—				
						-50	—				

単位：mm

出来形管理基準及び規格値

編	章	節	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
						個々の測定値 (X)	平均の測定値 (X <sub>10</sub> )	規格			
3	2	6	3	薄層カラー舗装工 (上層路盤工) セメント(石灰)安定処理工	厚 さ	中規模以上 -25	平均の測定値 (X <sub>10</sub> ) 中規模以上 -8	幅は、延長80m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000㎡に1個の割でコアーを採取もしくは掘り起こして測定。	工事規模の考え方 中規模とは、1層あたりの施工面積が2,000㎡以上とする。 小規模とは、表面及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が500 t未満あるいは施工面積が2,000㎡未満。 厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならぬとともに、10個の測定値の平均値 (X <sub>10</sub> ) について満足しなければならぬ。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。 コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。	3-2-6-13	
					幅	-50	—				
3	2	6	4	薄層カラー舗装工 (加熱アスファルト安定処理工)	厚 さ	中規模以上 -15	平均の測定値 (X <sub>10</sub> ) 中規模以上 -5	幅は、延長80m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000㎡に1個の割でコアーを採取して測定。		3-2-6-13	
					幅	-50	—				
3	2	6	5	薄層カラー舗装工 (基層工)	厚 さ	中規模以上 -9	平均の測定値 (X <sub>10</sub> ) 中規模以上 -3	幅は、延長80m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000㎡に1個の割でコアーを採取して測定。		3-2-6-13	
					幅	-25	—				

単位：mm

出来形管理基準及び規格値

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値			測定基準	測定箇所	摘要
							個々の測定値 (X)	平均の測定値 (X <sub>10</sub> )	中規模以上			
3	2	6	14	1	ブロック舗装工 (下層路盤工)	基準高▽	中規模以上 ±40	平均の測定値 (X <sub>10</sub> ) 中規模以上 —	基準高は、延長40m毎に1箇所を割りし、道路中心線及び端部で測定。厚さは、各車線200m毎に1箇所を掘り起こして測定。幅は、延長80m毎に1箇所を割り測定。	工事規模の考え方で、1層あたりの施工面積が2,000㎡以上とする。小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が500t未満あるいは施工面積が2,000㎡未満。厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならぬと、10個の測定値の平均値 (X <sub>10</sub> ) について満足しなければならぬ。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。	3-2-6-14	
						厚さ	±45	-15				
						幅	±50	—				
3	2	6	14	2	ブロック舗装工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工	厚さ	中規模以上 -25	平均の測定値 (X <sub>10</sub> ) 中規模以上 -8	幅は、延長80m毎に1箇所を割りし、厚さは、各車線200m毎に1箇所を掘り起こして測定。	3-2-6-14		
						幅	±50	—				



出来形管理基準及び規格値

編	章	節	枝番	工種	測定項目	規格値			測定基準	測定箇所	摘要
						個々の測定値 (X)	平均の測定値 (X <sub>10</sub> )	個々の測定値 (X <sub>10</sub> )			
3	2	6	3	ブロック舗装工 (上層路盤工) セメント(石灰) 安定処理工	厚さ	中規模以上	-25	-8	幅は、延長80m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000㎡に1個の割でコアーを採取もしくは掘り起こして測定。	工事規模の考え方で、中規模とは、1層あたりの施工面積が2,000㎡以上とする。小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が500 t未満あるいは施工面積が2,000㎡未満。	3-2-6-14
						小規模以下	-30				
						以上	-50				
3	2	6	4	ブロック舗装工 (加熱アスファルト) 安定処理工	厚さ	-15	-20	-5	幅は、延長80m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000㎡に1個の割でコアーを採取して測定。	厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならぬとともに、10個の測定値の平均値 (X <sub>10</sub> ) について満足しなければならぬ。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。 コアー採取について橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。	3-2-6-14
						-50	-				
						幅					
3	2	6	5	ブロック舗装工 (基層工)	厚さ	-9	-12	-3	幅は、延長80m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000㎡に1個の割でコアーを採取して測定。	3-2-6-14	
						-25	-				
						幅					

単位：mm

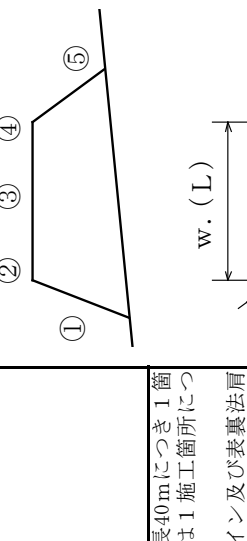
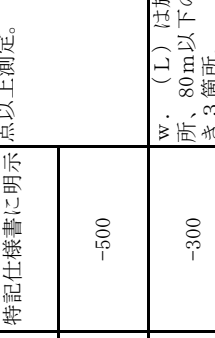
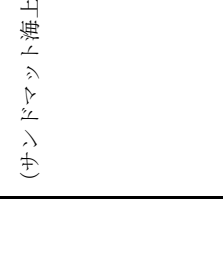
出来形管理基準及び規格値

編	章	節	条	枝番	工	種	測定項目		規格値		測定基準	測定箇所	摘要
							厚さ t	幅 w	個々の測定値 (X)	平均の測定値 (X <sub>10</sub> )			
3	2	6	15		路面切削工		厚さ t	-7	-2	<p>厚さは40m毎に現舗装高切削後の基準高の差で算出する。測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。延長40m未満の場合は、2箇所/施工箇所とする。断面状況で、間隔、測点数を変えることが出来る。測定方法は自動横断測定法によること出来る。</p>		3-2-6-15	
							幅 w	-25	-				
3	2	6	16		舗装打換え工		幅 w	-50		<p>各層毎1箇所/1施工箇所</p>		3-2-6-16	
							延長L	-100					
							厚さ t	該当工種					
							幅 w	-25					
							延長L	-100					
							厚さ t	該当工種					
3	2	6	17		オーバーレイ工		厚さ t	-9		<p>厚さは40m毎に現舗装高とオーバーレイ後の基準高の差で算出する。測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。幅は、延長80m毎に1箇所の割とし、延長80m未満の場合は、2箇所/施工箇所とする。断面状況で、間隔、測点数を変えることが出来る。</p>		3-2-6-17	
							幅 w	-25					
							延長 L	-100					
							平坦性	-	<p>3m<sup>2</sup>プロファイルター (σ)2.4mm以下 直読式(足付 き) (σ)1.75mm以 下</p>				

出来形管理基準及び規格値

編		章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3	土木工事共通編	2	一般施工	7	地盤改良工	路床安定処理工	基準高 $\nabla$	$\pm 50$	延長40m毎に1箇所を割で測定。 基準高は、道路中心線及び端部で測定。 厚さは中心線及び端部で測定。		3-2-7-2
							施工厚さ t	-50			
							幅 w	-100			
							延長 L	-200			
3	土木工事共通編	2	一般施工	7	地盤改良工	置換工	基準高 $\nabla$	$\pm 50$	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所、延長40m (50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。 厚さは中心線及び端部で測定。		3-2-7-3
							置換厚さ t	-50			
							幅 w	-100			
							延長 L	-200			

出来形管理基準及び規格値

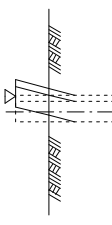
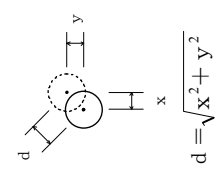
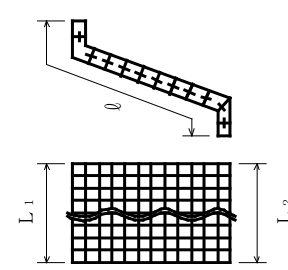
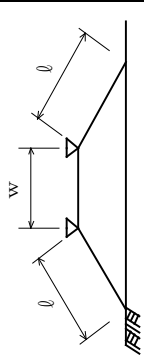
編		章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3	土木工事共通編	2 一般施工	7 地盤改良工	4		表層安定処理工 (サンドマット海上)	基準高 $\nabla$	特記仕様書に明示	施工延長10mにつき、1測点当たり5点以上測定。		3-2-7-4
							法 長 $l$	-500			
							天 端 幅 $w$	-300			
							天端延長 $L$	-500			
3	土木工事共通編	2 一般施工	7 地盤改良工	5		パイルネット工	基準高 $\nabla$	$\pm 50$	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所。厚さは中心線及び両端で掘り起こして測定。杭については、当該杭の項目に準ずる。		3-2-7-5
							厚 さ $t$	-50			
							幅 $w$	-100			
							延 長 $L$	-200			
3	土木工事共通編	2 一般施工	7 地盤改良工	6		サンドマット工	施工厚さ $t$	-50	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所。厚さは中心線及び両端で掘り起こして測定。		3-2-7-6
							幅 $w$	-100			
							延 長 $L$	-200			

単位：mm

出来形管理基準及び規格値

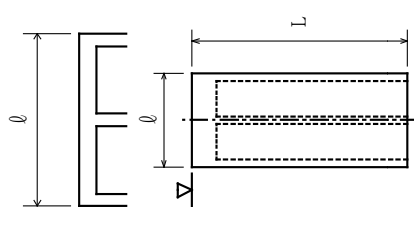
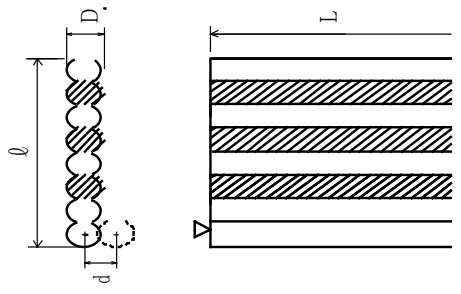
編		章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3	2	一般施工	7	7		バーチカルドレーン工 (サンドドレーン工) (ペーパードレーン工) (袋詰式サンドドレーン工)	位置・間隔 w	±100	100本に1箇所。 100本以下は2箇所測定。1箇所に4本測定。 ただし、ペーパードレーンの杭径は対象外とする。		3-2-7-7 3-2-7-8
							杭 径 D	設計値以上			
3	2	一般施工	7	8		締固め改良工 (サンドコンパクションパイル工)	打込長さ h	設計値以上	全本数 計器管理にかえることができる。		※余長は、適用除外
							基準高 ▽	-50			
3	2	一般施工	7	9		固結工 (粉体噴射攪拌工) (高圧噴射攪拌工) (スラリー攪拌工) (生石灰パイル工)	位置・間隔 w	D/4以内	全本数		3-2-7-9
							杭 径 D	設計値以上			
3	2	一般施工	7	9		固結工 (粉体噴射攪拌工) (高圧噴射攪拌工) (スラリー攪拌工) (生石灰パイル工)	深 度 0	設計値以上	全本数		3-2-7-9

出来形管理基準及び規格値

編		章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3	土木工事共通編	2	10	5	1	土留・仮締切工 (H鋼杭) (鋼矢板)	基準高▽	±100	基準高は施工延長40m (測点間隔25mの場合)につき1箇所。延長40m (又は50m) 以下のものは、1施工箇所につき2箇所。		3-2-10-5
							根入長	設計値以上			
3	土木工事共通編	2	10	5	2	土留・仮締切工 (アンカー工)	削孔深さφ	設計深さ以上	全数		3-2-10-5
							配置誤差 d	100			
3	土木工事共通編	2	10	5	3	土留・仮締切工 (連節ブロック張り工)	法長φ	-100	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。		3-2-10-5
							延長 L <sub>1</sub> L <sub>2</sub>	-200			
3	土木工事共通編	2	10	5	4	土留・仮締切工 (締切盛土)	基準高▽	-50	施工延長50mにつき1箇所。延長50m以下のものは1施工箇所につき2箇所。		3-2-10-5
							天端幅 w	-100			
							法長φ	-100			

単位：mm

出来形管理基準及び規格値

編		章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3	土木工事共通編	2	10	5	5	土留・仮締切工 (中詰盛土)	基準高 $\nabla$	-50	施工延長50mにつき1箇所。 延長50m以下のものは、1施工箇所に つき2箇所。		3-2-10-5
3	土木工事共通編	2	10	9		地中連続壁工 (壁式)	基準高 $\nabla$	$\pm 50$	基準高は施工延長40m (測点間隔25m の場合は50m) につき1箇所。延長40 m (又は50m) 以下のものについては 1施工箇所につき2箇所。		3-2-10-9
							連壁の長さ $l$	-50	変位は施工延長20m (測点間隔25mの 場合は25m) につき1箇所。延長20m (又は25m) 以下のものは1施工箇所 につき2箇所。		
							変 位	300			
							壁 体 長 L	-200			
3	土木工事共通編	2	10	10		地中連続壁工 (柱列 式)	基準高 $\nabla$	$\pm 50$	基準高は施工延長40m (測点間隔25m の場合は50m) につき1箇所。延長40 m (又は50m) 以下のものについては 1施工箇所につき2箇所。		3-2-10-10 D: 杭径
							連壁の長さ $l$	-50	変位は施工延長20m (測点間隔25mの 場合は25m) につき1箇所。延長20m (又は25m) 以下のものは1施工箇所 につき2箇所。		
							変 位 d	D/4以内			
							壁 体 長 L	-200			

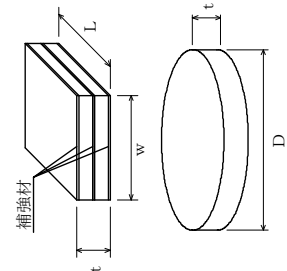
出来形管理基準及び規格値

編		章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3		2	12	1	1	鋼構造費(金属支承工)	上下部鋼構造物との接合用ボルト孔	+2 -0	製品全数を測定。		3-2-12-1
							センターボスを基準にした孔位置のずれ				
							中心距離	1以下			
							センターボスを基準にした孔位置のずれ				
							<math>\leq 1000\text{mm}</math>				
							>1000mm	1.5以下			
							孔の直径				
							<math>\leq 100\text{mm}</math>	+3 -1			
							>100mm	+4 -2			
							アンカーボルト用孔(鑄放し)	JIS B 0403 CT13			
							孔の中心距離				
							センターボス	+0 -1			
							ボスの直径	+1 -0			
							ボスの高さ				

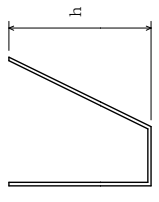


出来形管理基準及び規格値

編		章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要	
3	土木工事共通編	2	一般施工	1	1	鑄造費 (金属支承工)	上唇の橋軸及び直角方向の長さ寸法	JIS B 0403 CT13	製品全数を測定。 ※1) 片面削り加工も含む。 ※2) ただし、ソールプレート接触面の橋軸及び橋軸直角方向の長さ寸法に対してはCT13を適用する。		3-2-12-1	
							全移動量 $l$	$\pm 2$				
								$\pm 0/100$				
							上, 下面加工仕上げ	$\pm 3$				
							組立高さ $H$	$H \leq 300\text{mm}$				$\pm 3$
								$H > 300\text{mm}$				( $H/200+3$ ) 小数点以下切り捨て
							普通寸法	鑄放し長さ寸法 ※1)、※2)				JIS B 0403 CT14
								鑄放し肉厚寸法 ※1)				JIS B 0403 CT15
								削り加工寸法				JIS B 0405 粗級
								ガス切断寸法				JIS B 0417 B級
								幅 $w$ 長さ $L$ 直径 $D$				0 ~ +5
							厚さ $t$	$500 < w, L, D \leq 1500\text{mm}$				0 ~ +1%
$1500 < w, L, D$	0 ~ +15											
$t \leq 20\text{mm}$	$\pm 0.5$											
	$20 < t \leq 160$	$\pm 2.5\%$										
	$160 < t$	$\pm 4$										
	平面度	1										
3	土木工事共通編	2	一般施工	1	2	鑄造費 (大型ゴム支承工)	製品全数を測定。 平面度：1個のゴム支承の厚さ ( $t$ ) の最大相対誤差	製品全数を測定。 平面度：1個のゴム支承の厚さ ( $t$ ) の最大相対誤差		3-2-12-1		



出来形管理基準及び規格値

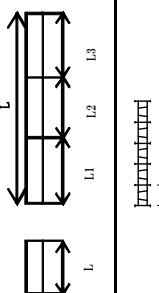
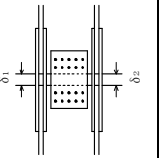
編		章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
3	土木工事共通編	2	一般施工	1	3	仮設材製作工	部 材	$\pm 3 \dots \ell \leq 10$ $\pm 4 \dots \ell > 10$	図面の寸法表示箇所での測定。		3-2-12-1
							部材長 $\ell$ (m)				
3	土木工事共通編	2	一般施工	1	4	刃口金物製作工	刃 口 高 さ h (m)	$\pm 2 \dots h \leq 0.5$ $\pm 3 \dots 0.5 < h \leq 1.0$ $\pm 4 \dots 1.0 < h \leq 2.0$	図面の寸法表示箇所での測定。		3-2-12-1
							外周長 L (m)	$\pm (10+L/10)$			

出来形管理基準及び規格値

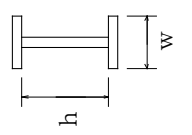
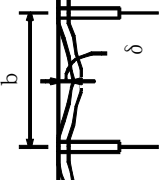
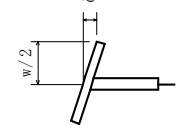
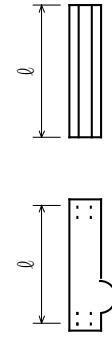
編	章	節	枝番	工	種	測定項目	規格値	測定基準		測定箇所	摘要					
								鋼桁等	トラス・アーチ等							
3	2	12	1	3	桁製作工 (仮組立による検査を 実施する場合) (シミュレーション/仮 組立検査を行う場合)	フランジ幅 w (m)	±2..... w ≤ 0.5 ±3..... 0.5 < w ≤ 1.0 ±4..... 1.0 < w ≤ 2.0 ±(3+w/2)..... 2.0 < w	主桁・主構 各支点及び各支間中央付近を測定。 床組など 構造別に、5部材につき1個抜き 取った部材の中央付近を測定。 なお、JISマーク表示品を使用する場 合は、製造工場の発行するJISに基づ く試験成績表に替えることができる。	トラス・アーチ等	 I型鋼桁 トラス弦材	3-2-12-3					
						腹板高 h (m)	h / 250	主桁 各支点及び各支間中央付近を測定。		 3-2-12-3						
						腹板間隔 b / (m)	b / 150	h : 腹板高 (mm) b : 腹板又はリブの間隔 (mm) w : フランジ幅 (mm)		 3-2-12-3						
						板の平面度 δ (mm)										
						フランジの直角度 δ (mm)	w / 200									
						部材長 ℓ (m)	±3...ℓ ≤ 10 ±4...ℓ > 10	原則として仮組立をしない状態の部材 について、主要部材全数を測定。		 3-2-12-3						
						トラス、アーチなど	±2...ℓ ≤ 10 ±3...ℓ > 10									
						圧縮材の曲がり δ (mm)	ℓ / 1000	主要部材全数を測定。 ℓ : 部材長 (mm)		 3-2-12-3						
						部材精度										
						※規格値のwに代入する数値はm単位の数値である。 ただし、「板の平面度δ、フランジの直角度δ、圧縮材の曲りδ」の規格値のh、b、wに代入する数値はmm単位の数値とす る。										

単位：mm

出来形管理基準及び規格値

編	章	節	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準		測定箇所	摘要															
							鋼桁等	トラス・アーチ等																	
3	2	12	1	桁製作工 (仮組立による検査を 実施する場合) (シミュレーション/仮 組立検査を行う場合)	全長 L (m) 支間長 Ln (m)	$\pm (10+L/10)$ $\pm (10+Ln/10)$	各桁毎に全数測定。 トラス・アーチ等		3-2-12-3																
										主桁、主構の中心 間距離 B (m)	$\pm 4 \dots\dots B \leq 2$ $\pm (3+B/2)$ $\dots\dots B > 2$	各支点及び各支間中央付近を測定。 B	3-2-12-3												
										主構の組立高さ h (m)	$\pm 5 \dots\dots h \leq 5$ $\pm (2.5+h/2)$ $\dots\dots h > 5$			両端部及び中心部 を測定。 h	3-2-12-3										
										主桁、主構の通り δ (mm)	$5+L/5 \dots\dots$ $L \leq 100$ $25 \dots\dots L > 100$					最も外側の主桁又は主構について支点 及び支間中央の1点を測定。 L: 測線上 (m)	3-2-12-3								
										仮組立精度															
										主桁、主構のそり δ (mm)	$-5 \sim +5 \dots\dots L \leq 20$ $-5 \sim +10 \dots\dots$ $20 < L \leq 40$ $-5 \sim +15 \dots\dots$ $40 < L \leq 80$ $-5 \sim +25 \dots\dots$ $80 < L \leq 200$							各主構について10 ～12 m 間隔を測 定。 L: 主桁の 支間長 (m)	3-2-12-3						
										主桁、主構の橋端 における出入差 δ (mm)	設計値±10									どちらか一方の主桁 (主構) 端を測 定。 δ	3-2-12-3				
										主桁、主構の鉛直 度 δ (mm)	$3+h/1,000$											各主桁の両端部を 支点及び支間中央 付近を測定。 h: 主構の高さ (mm)	3-2-12-3		
										現場継手部のすき 間 δ 1, δ 2 (mm)	設計値±5														3-2-12-3
										※規格値のL, B, h に代入する数値はm単位の数値である。 ただし、「主桁、主構の鉛直度δ」の規格値のhに代入する数値はm単位の数値とする。															

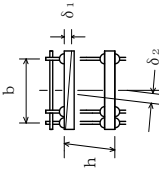
出来形管理基準及び規格値

単位：mm		編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3	土木工事共通編	2	一般施工	12	工場製作工 共通	3	桁製作工 (仮組立検査を実施しない場合)	フランジ幅 w (m)	±2…… w ≤ 0.5 ±3…… 5 < w ≤ 1.0 ±4…… 1.0 < w ≤ 2.0 ±(3+w/2)…… 2.0 < w	主桁、主構 各支点及び各支間中央付近を測定。 床組など 構造別に、5部材につき1個抜き取っ た部材の中央付近を測定。	 I型鋼桁	3-2-12-3
								腹板高 h (m)	±2…… w ≤ 0.5 ±3…… 5 < w ≤ 1.0 ±4…… 1.0 < w ≤ 2.0 ±(3+w/2)…… 2.0 < w			
3	土木工事共通編	2	一般施工	12	工場製作工 共通	3	桁製作工 (仮組立検査を実施しない場合)	板の平面度 δ (mm)	h / 250	主桁 各支点及び各支間中央付近を測定。 h : 腹板高 (mm) b : 腹板又はリップの間隔 (mm) w : フランジ幅 (mm)		
								箱桁等のフ ランジ鋼床 版のデッキ プレート	b / 150			
3	土木工事共通編	2	一般施工	12	工場製作工 共通	3	桁製作工 (仮組立検査を実施しない場合)	フランジの直角度 δ (mm)	w / 200	主要部材全数を測定。		
								部材長 ℓ (m)	±3 …… ℓ ≤ 10 ±4 …… ℓ > 10			
								鋼桁	±3 …… ℓ ≤ 10 ±4 …… ℓ > 10			
※規格値のwに代入する数値はm単位の数値である。 ただし、「板の平面度δ、フランジの直角度δ」の規格値のh、b、wに代入する数値はmm単位の数値とする。												

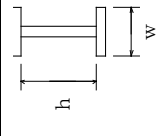
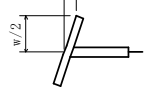
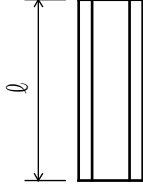
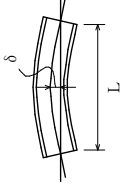
出来形管理基準及び規格値

編		章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3 土木工事共通編	2 一般施工	12 工場製作工 共通	3	3	桁製作工 (鋼製堰堤製作工(仮組立時))	部材の水平度	10	全数を測定。	図 a 格子形鋼製砂防ダム 図 b 鋼製スリットダムA型 図 c 鋼製スリットダムB型 図 d 鋼製L型スリットダム	3-2-12-3	
						堤 長 L	±30				
						堤 長 $\phi$	±10				
						堤 幅 W	±30				
						堤 幅 w	±10				
						高 さ H	±10				
						ベースプレートの高さ	±10				
						本体の傾き	±H/500				
3 土木工事共通編	2 一般施工	12 工場製作工 共通	4	検査路製作工	部材	部材長 $\phi$ (m)	±3... $\phi$ ≤ 10 ±4... $\phi$ > 10	図面の寸法表示箇所にて測定。	3-2-12-4		
					部材	部材長 w (m)	0 ~ +30				
					仮組立時	組合せる伸縮装置との高さの差 $\delta_1$ (mm)	設計値 ±4				
						フィンガーの食い違い $\delta_2$ (mm)	±2				
3 土木工事共通編	2 一般施工	12 工場製作工 共通	5	鋼製伸縮継手製作工	部材	部材長 w (m)	0 ~ +30	製品全数を測定。 両端及び中央部付近を測定。	3-2-12-5		
					仮組立時	組合せる伸縮装置との高さの差 $\delta_1$ (mm)	設計値 ±4				
						フィンガーの食い違い $\delta_2$ (mm)	±2				

出来形管理基準及び規格値

編		章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要	
3	土木工事共通編	2	一般施工	6		落橋防止装置製作工	部材	部材長 $l$ (m)	$\pm 3 \dots 0 \leq 10$ $\pm 4 \dots 0 > 10$	図面の寸法表示箇所 で測定。		3-2-12-6
							部材	部材長 $l$ (m)	$\pm 3 \dots 0 \leq 10$ $\pm 4 \dots 0 > 10$			
3	土木工事共通編	2	一般施工	7		橋梁用防護柵製作工	部材	部材長 $l$ (m)	$\pm 3 \dots 0 \leq 10$ $\pm 4 \dots 0 > 10$	図面の寸法表示箇所 で測定。		3-2-12-7
							部材	部材長 $l$ (m)	$\pm 3 \dots 0 \leq 10$ $\pm 4 \dots 0 > 10$			
3	土木工事共通編	2	一般施工	8		アンカーフレーム製作工	上面	水平度 $\delta 1$ (mm)	$b / 500$	軸心上全数測定。		3-2-12-8
							鉛直	度 $\delta 2$ (mm)	$h / 500$			
							高さ	$h$ (mm)	$\pm 5$			

出来形管理基準及び規格値

編		章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3	2	12	9			プレビーム用桁製作工	フランジ幅 w (m)	±2..... w ≤ 0.5 ±3..... 0.5 < w ≤ 1.0 ±4..... 1.0 < w ≤ 2.0 ±(3+w/2)..... 2.0 < w	各支点及び各支間中央付近を測定。	 I型鋼桁	3-2-12-9
							腹板高 h (m)				
3	2	12	9			鋼製排水管製作工	フランジの直角度 δ (mm)	w / 200	各支点及び各支間中央付近を測定。		3-2-12-9
							部材				
3	2	12	9			仮組立時	部材長 l (m)	± 3 ... l ≤ 10 ± 4 ... l > 10	原則として仮組立をしない部材について 主要部材全数で測定。		3-2-12-9
							主桁のそり δ	-5 ~ +5 ... l ≤ 20 -5 ~ +10 ... 20 < l ≤ 40			
3	2	12	10			鋼製排水管製作工	部材長 l (m)	± 3 ... l ≤ 10 ± 4 ... l > 10	図面の寸法表示箇所を測定。		3-2-12-10
							部材				

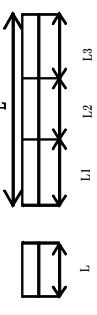
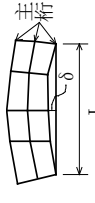


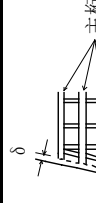
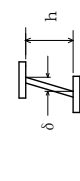
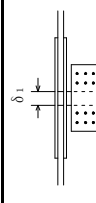


出来形管理基準及び規格値

編	3	土木工事共通編
章	2	一般施工
節	12	工場製作工 共通
条	11	
枝番		
工	工場塗装工	
種		
測定項目	塗膜厚	
規格値	<p>a. ロット塗膜厚の平均値は、目標塗膜厚合計値の90%以上。</p> <p>b. 測定値の最小値は、目標塗膜厚合計値の70%以上。</p> <p>c. 測定値の分布の標準偏差は、目標塗膜厚合計値の20%を超えない。ただし、測定値の平均値が目標塗膜厚合計値より大きい場合はこの限りではない。</p>	
測定基準	<p>外面塗装では、無機ジンクリッチペイントの塗付後と上塗り終了時に測定し、内面塗装では内面塗装終了時に測定。</p> <p>1 ロットの大きさは、500㎡とする。</p> <p>1 ロット当たり測定数は25点とし、各点の測定は5回行い、その平均値をその点の測定値とする。</p>	
測定箇所		
摘要	3-2-12-11	

単位：mm

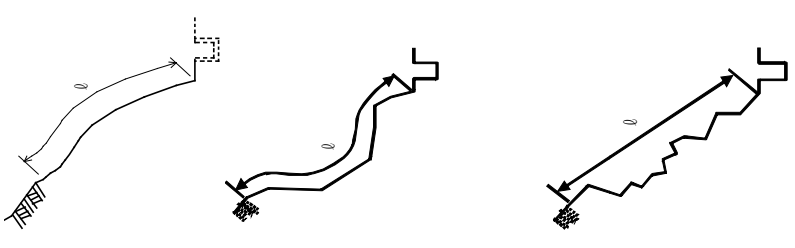
出来形管理基準及び規格値

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3	2	13			架設工(鋼橋) (クレーン架設) (クレーブルクレーン架設) (クレーブルエレクション架設) (架設桁架設) (架設桁架設) (トラーベラークレーン架設)	全長L (m) 支間長L <sub>n</sub> (m)	±(20+L/5) ±(20+L <sub>n</sub> /5)	各桁毎に全数測定。		3-2-13
						通り δ (mm)	±(10+2L/5)	L: 主桁・主構の支間長(m)		
						そり δ (mm)	±(25+L/2)	主桁、主構を全数測定。 L: 主桁・主構の支間長(m)		
						※主桁、主構の中心間距離B(m)	±4..... B≤2 ±(3+B/2)...B>2	各支点及び各支間中央付近を測定。		
						※主桁の橋端における出入差δ (mm)	設計値 ±10	どちらか一方の主桁(主構)端を測定。		
						※主桁、主構の鉛直度δ (mm)	3+h/1,000	各主桁の高端部を測定。h: 主桁・主構の高さ(mm)		
						※現場継手部のすき間δ <sub>1</sub> , δ <sub>2</sub> (mm)	設計値 ±5	主桁、主構の全継手数の1/2を測定。 δ <sub>1</sub> , δ <sub>2</sub> のうち大きいもの設計値が5mm以下の場合は、マイナス側については設計値以上とする。		
								※は仮組立検査を実施しない工事に適用。		
								※規格値のL, Bに代入する数値はm単位の数値である。 ただし、「主げた、主構の鉛直度δ」の規格値のhに代入する数値はmm単位の数値とする。		

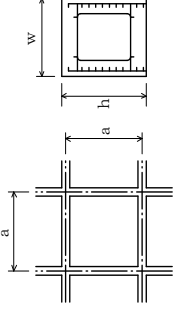
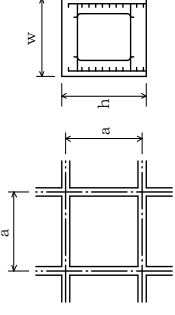
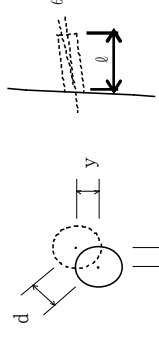
出来形管理基準及び規格値

編		章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要		
3	土木工事共通編	2	13	橋梁架設工		架設工 (コンクリート橋) (クレーン架設) (架設桁架設) 架設工支保工 (固定) (移動) 架設桁架設 (片持架設) (押し架設)	全長・支間	—	各桁毎に全数測定。		3-2-13		
							桁の中心間距離	—	一連毎の両端及び支間中央について各上下間を測定。				
							そり	—	主桁を全数測定。				
3	土木工事共通編	2	14	法面工 共通	1	植生工 (種子散布工) (張芝工) (筋芝工) (市松芝工) (植生シート工) (植生マット工) (植生筋工) (人工張芝工) (植生穴工)	切土法長 $\phi$	$\phi < 5\text{ m}$ -200	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。		3-2-14-2		
							$\phi \geq 5\text{ m}$	法長の - 4 %					
							盛土法長 $\phi$	$\phi < 5\text{ m}$ -100					
							$\phi \geq 5\text{ m}$	法長の - 2 %					
					延長 L	-200	1 施工箇所毎						
		3	土木工事共通編	2	14	法面工 共通	2	植生工 (植生基材吹付工) (客土吹付工)	法長 $\phi$	$\phi < 5\text{ m}$ -200	施工延長40mにつき1箇所、40m以下のものは1施工箇所につき2箇所。		3-2-14-2
									$\phi \geq 5\text{ m}$	法長の - 4 %			
									厚さ t	$t < 5\text{ cm}$ -10			
$t \geq 5\text{ cm}$	-20												
			延長 L	-200	1 施工箇所毎								

出来形管理基準及び規格値

編		章	節	条	枝番	工種	測定項目		規格値	測定基準	測定箇所	摘要	
3	土木工事共通編	2	一般施工	3		吹付工 (コンクリート) (モルタル)	法長 $l$	$l < 3\text{ m}$	-50	施工延長40mにつき1箇所、40m以下のものは1施工箇所につき2箇所。測定断面に凹凸があり、曲線法長の測定が困難な場合は直線法長とする。		3-2-14-3	
								$l \geq 3\text{ m}$	-100				
							厚さ $t$	$t < 5\text{ cm}$	-10	200㎡につき1箇所以上、200㎡以下は2箇所をせん孔により測定。			
								$t \geq 5\text{ cm}$	-20				
							延長 $L$	ただし、吹付面に凹凸がある場合の最小吹付厚は、設計厚の50%以上とし、平均厚は設計厚以上		-200			1 施工箇所毎

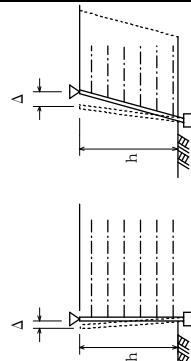
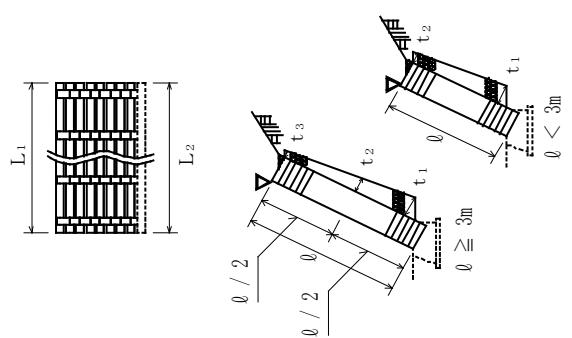
出来形管理基準及び規格値

編		章	節	条	枝番	工種	測定項目		規格値	測定基準	測定箇所	摘要		
3	土木工事共通編	2 一般施工	14 法面工 共通	4	1	法砕工 (現場打法砕工) (現場吹付法砕工)	法長 $\ell$	$\ell < 10\text{m}$	-100	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。		3-2-14-4 曲線部は設計図書による		
							$\ell \geq 10\text{m}$	-200						
							幅 $w$		-30	枠延長100mにつき1箇所、枠延長100m以下のものは1施工箇所につき2箇所。				
							高さ $h$		-30					
							枠中心間隔 $a$		±100					
							延長 $L$		-200	1 施工箇所毎				
		3	土木工事共通編	2 一般施工	14 法面工 共通	4	2	法砕工 (ブレイキヤスト法砕工)	法長 $\ell$	$\ell < 10\text{m}$	-100	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。		3-2-14-4
									$\ell \geq 10\text{m}$	-200				
									延長 $L$		-200	1 施工箇所毎		
									削孔深さ $\ell$		設計値以上	全数		
									配置誤差 $d$		100			
									せん孔方向 $\theta$		±2.5度			
3	土木工事共通編	2 一般施工	14 法面工 共通	6		アンカー工					 $d = \sqrt{x^2 + y^2}$	3-2-14-6		

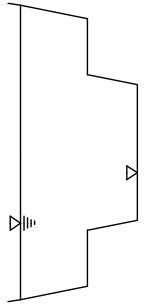
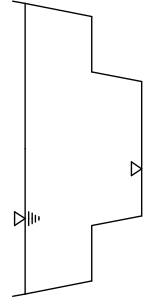
出来形管理基準及び規格値

編		章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3	土木工事共通編	2	一般施工	1		(一般事項) 場所打擁壁工	基準高 $\nabla$	$\pm 50$	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。		3-2-15-1
							厚さ t	-20			
							裏込厚さ	-50			
							幅 $w_1, w_2$	-30			
							高さ h	-50			
								-100			
							延長 L	-200			
1 施工箇所毎											
3	土木工事共通編	2	一般施工	2		プレキャスト擁壁工	基準高 $\nabla$	$\pm 50$	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。		3-2-15-2
							延長 L	-200			
							1 施工箇所毎				

出来形管理基準及び規格値

編		章	節	条	枝番	工種	種	測定項目		規格値	測定基準	測定箇所	摘要													
3	土木工事共通編	2	15	3		補強土壁工 (補強土(テールアルメ)壁工法) (多教アンカー式補強土工法) (ジオテキスタイルを用いた補強土工法)	補強土壁工	基準高 ▽	±50	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。		3-2-15-3														
								高さ h	-50																	
								鉛直度 △	-100																	
								控え長さ	設計値以上																	
								延長 L	-200	1 施工箇所毎																
								3	土木工事共通編	2	15	4		井桁ブロック工	井桁ブロック工	基準高 ▽	±50	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。		3-2-15-4						
																法長 $\phi$	-50									
																厚さ $t_1, t_2, t_3$	-100									
																延長 $L_1, L_2$	-200	1 施工箇所毎								

出来形管理基準及び規格値

編		章	節	条	枝番	工 種	測定項目			規格値		測定基準	測定箇所	摘要	
3	土木工事共通編	2	一般施工	16	浚渫工 共通	1	浚渫船運転工 (ポンプ浚渫船)	基準高▽	電気船	200ps	上限 +200	下限 -800	延長方向は、設計図書により指定された測点毎、5m毎。横断方向は、法尻、法肩とし必要に応じ中間点も加える。ただし、各測定値の平均値の設計基準高以下であること。		3-2-16-3
									ディーゼル船	250ps	+200	-800			
3	土木工事共通編	2	一般施工	16	浚渫工 共通	2	浚渫船運転工 (グラブ浚渫船) (バックホウ浚渫船)	幅	幅	幅	-200	-200	延長方向は、設計図書により指定された測点毎、5m毎。横断方向は、法尻、法肩とし必要に応じ中間点も加える。ただし、各測定値の平均値の設計基準高以下であること。		3-2-16-3
								延長	延長	延長	-200	-200			



出来形管理基準及び規格値

編		章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3	土木工事共通編	2	一般施工	18	床版工	床版工	基準高▽	±20	基準高は、1径間当たり2箇所(支点付近)で、1箇所当たり両端と中央部の3点、幅は1径間当たり3箇所、厚さは型枠設置時におおむね10㎡に1箇所測定。 (床版の厚さは、型枠検査をもって代える。)		3-2-18-2
							幅 w	0～+30			
							厚 さ t	-10～+20			
							鉄筋のかぶり	設計値以上	1径間当たり3断面(両端及び中央)測定。1断面の測定箇所は断面変化毎1箇所とする。		
							鉄筋の有効高さ	±10			
							鉄筋間隔	±20	1径間当たり3箇所(両端及び中央)測定。 1箇所の測定は、橋軸方向の鉄筋は全数、橋軸直角方向の鉄筋は加工形状毎に2mの範囲を測定。		
							上記、鉄筋の有効高さがマイナスの場合	±10			

単位：mm